

会場での討論

Q 1 : 症例報告や成書記載をみると、気管切開チューブ留置期間は12時間以内などの短時間だけであるように思う。また、文献と比較してチューブ閉塞が生じる頻度はこの発表データでは少なかった。気管切開チューブを長期間留置しても、チューブ閉塞の生じる頻度が少なかった理由は何なのか？ 管理のコツのようなものはあるのか？

A 1 : 基本的に終日監視体制が最も重要だと思いますが、使用した気管切開チューブがダブルルーメンチューブで比較的簡単に定期的に内筒交換が実施できるチューブを使用しているので閉塞前に対処できたという点と、気管切開管理中には吸入気の湿度を70-80%程度に高く保っていた点が重要であると考えております。チューブ管理中は、チューブ口を露出せず、24時間ガーゼやストッキネットで覆い、乾燥や異物吸引などを防ぐことも大事だと思います。